Vol. 134号
2004（平成16）年
10月1日発行

Colony Tokyo
コロニーとうきょう

社会福祉法人 東京コロニー
〒165-0023
東京都中野区江原町2-6-7
TEL 03-3952-6166
FAX 03-5952-6664
http://www.tocolo.or.jp/
（法人本部　事務局）

アートビリティギャラリー 11　作者　金子　倫久　『青い水さし』（詳しくは9頁をご覧下さい。）

時評　「問われる事業者責任と自己責任」
法人の主な動きから
ISO 9000シリーズ　資格取得への取り組み
2004年度上半期の研修事業活動から

法人本部・コロニー印刷所・アートビリティ・IT事業本部・デジタルメディアセンター・トーコロ情報処理センター職能開発室（〒165-0023 中野区江原町2-6-7）・**葛飾福祉工場**（〒125-0042 葛飾区金町2-8-20）・**立石工場**（〒124-0012 葛飾区立石8-50-1）・**トーコロ情報処理センター事業部**（〒162-0051 新宿区西早稲田2-2-8）・**コロニー東村山印刷所・コロニー東村山・コロニー東村山第二印刷所**（〒189-0001 東村山市秋津町2-22-9）・**大田福祉工場**（〒143-0015 大田区大森西2-22-26）・**浜松町工場**（〒105-0022 港区海岸1-4-17）・**トーコロ青葉ワークセンター・トーコロ青葉第二ワークセンター・トーコロ青葉第三ワークセンター**（〒189-0002 東村山市青葉町2-39-10）・**国分寺戸倉寮**（〒185-0003 国分寺市戸倉1-21-9）・**東久留米第一氷川台寮・東久留米第二氷川台寮**（〒203-0004 東久留米市氷川台2-31-22）

時　評

「問われる事業者責任と自己責任」

理事長　勝又 和夫
かつまたかずお

市場原理と競争社会

昨今の行・財政改革の中で、「市場原理」と「競争社会」、これがこれからのキーワードだと盛んに言われています。

「市場原理」というのは市場がサービスや物の価値を決めていくということであり、その中では当然のごとく競争してもらうのだということで、いろいろなものについて民営化の話があり、とにかく競争でなければならないという話になっています。

郵政公社民営化の折の話し

我々に関係する話でいうと、例えば2年前郵政公社の民営化の折の話しがあります。それまで盲人用の郵便物については全部無料で、障害者団体の機関紙等の郵送料の割引もあったわけですが、これらについていわゆる競争を阻害するという話がでました。当時の郵政省（現・総務省）はその事で障害のある人が困るのだったら福祉の予算で見てもらえばいいのではないかと大変厳しい話をしておりました。我々はこれまでどおりユニバーサルサービスとして守ることができないかということで、障害者関係の多くの団体が要望することによって、何とか法律の中にも一定の書き込みをしていただき、そのサービスを守ることができました。

私は、当時このことにかかわり、もしも、このことがその通りだというならば、例えばJRや飛行機の割引制度があるわけですが、障害のある人たちに社会そのものが一定の配慮をするというユニバーサルサービスが全て競争の邪魔になると言われかねない思いがしました。

大きな流れとしてそういう方向で全体が動いているのではないかと思えています。

特に競争社会というのは、障害があるものもないものもお互い何のハンディもなく競いあうというような社会をある意味想定しているのではないかと思え、そういったものが本当にいいのかどうかということを我々はいろいろな場面で関係者に対して言わなければいけないと思っております。

問われる事業者責任

このような世の中の風潮の中で、我々に絞って考えてみると「事業者責任」というものが問われてくると思っております。

事業者責任で言えば今一番わかりやすいのはある自動車メーカーの話しでしょうか。自動車として安全なものを提供しない、それから欠陥や事故を隠す、そういった車が社会に対して大変な被害を与える事に対して、新聞などを見ていましたら、「その会社の車は走らせないように行政指導するべきである」というくらいの論調になっています。事業者として消費者にあるサービスを提供する、提供されたサービスに対しては事業者がきちんとした責任を負わなければならないのは当然のことですが、そのくらいに言われています。

我々でいえば福祉サービスというものを社会に提供する、その提供される福祉サービスが消費者から見た時に納得できるもの、満足できるものかという事を事業者は常に責任として負わなければいけないのだという事です。

一方では、自己責任

事業者責任に併せて、消費者として我々の福祉サービスを買う人達、我々を利用していただいている人達が自分の責任で東京コロニーを選んでそのサービスを買ったとするならば、買った責任は買った本人にあるのだという流れになってきていると思っています。支援費制度に切り替わって、本人が受給したお金でどこを選んでもいいというシステムになっており、そのシステムの中でたまたま東京コロニーを選んで国の税金を使って事業者のサービスを受けていることについて、国が期待しているサービスが受けきれないならば、選んだ本人に責任はないのかというくらいの言い方が出てきています。これは福祉の分野での一例ですが、我が国の社会のいろいろな仕組みにおいて「事業者責任」と「自己責任」が新しい「市場原理や競争社会」の中では常に問われる中味になっているのではないかとの思いがしています。

こういう全体像の中で福祉に大変大きなお金がかかっている、この事について改革をしなければならないという事で、社会福祉基礎構造改革が本格化してきています。我々はこの流れをしっかりと見極め、各々の立場において、社会から期待されることに応えつつも、障害者福祉のあり様にもとづいた、施策推進について国民の理解が得られるようにやるべきことはやり、言うべき時にはしっかりと発言していくことが、今求められているのではないでしょうか。

（法人内研究会の講演より抜粋）

ひろば

中野工場

パン教室を始めました

中野工場のフタバベーカリーも2年目に入り、午前中のみの店舗販売にも関わらず地域の皆さんにも少しずつではありますが噂が広まってきているようです。

ご近所の喫茶店ではフタバベーカリーのパンを使用して頂いています。当店では天然酵母・自然塩・アルカリイオン水・長時間発酵等のこだわりの製法で 体にやさしい食べ物として『子供には安全な物を』とお客様にも好評です。

また、午後は中野区内の福祉作業所や区役所関係に訪問販売を通じて地域との交流をしながら障害のある方々が社会と触れ合える事や、パンを一人で始めから焼き上がりまで出来るように皆で頑張っています。不定期的にではありましたが1年半で、養護学校の生徒さんやそのお母さん、作業所の指導員の方々、福祉施設の職員の方達とパン教室を行ってきました。（今年度の事業所見学に参加された方は体験されたトライアングルやもちもちパンを主に行いました。）そして今年9月からは、家庭で出来る目的で地域の方とのコミュニケーションをはかれればと毎月第1土曜日に手で粉を練るところから出来上がるまでの5時間のパン教室と2時間ほどで出来上がるパン教室を実践しています。

皆さんも時間がありましたら是非立ち寄ってパン作りを体験してみませんか楽しいですよ。

（フタバベーカリー　中山　太郎）

東村山工場

知的障害のある方への就労支援現場での研修活動

はじめに

支援の制度が激しく変化していく中で、われわれ従業員が利用者に対しどんな支援ができるのか、従業員・利用者を合わせこれまで2回の話し合いの場を設け、利用者は何を望んでいるのか、従業員は何をしなければならないのか一人一人に聞いてみました。

初回のレクチャー

初回ではケースワーカーより知的障害者の特徴や対応等についての説明があり、全員というわけには行きませんが従業員数名に聞いたところ、「支援支援とあまり気にしすぎるのはどうか（仕事に支障がある）、」「支援することについては課長や係長に任せ自分たちは仕事をするだけでよいのでは（できる人がやればいい）、」「利用者にどう接したらよいかわからない。」

などの意見が出ました。この時点では利用者からの意見を聞くことまでできず、このことを受け2回目の課題として「従業員は支援をどのように考えていけばよいのか」というテーマで持つこととしました。

2回目のレクチャー

2回目でははじめに利用者からの意見、自分が望んでいることなど聞くことから始めました。（6名）

「早く印刷機を一人で回したい。そのための支援をお願いします。」

「従業員のAさんは自分にどのような支援をしてくれるのか。」

「従業員のBさんは、本当に仕事を把握し自分たちに教えることができるのか。」

「係長には指示だけでなく最後（仕事が完了する）まで教えてもらいたい。」等の厳しい意見が出されました。

次に従業員の考えとして、支援とは利用者の方たちが一般就労に向かうための手伝い（一般企業でやれるくらいの技術を身につける、という意味も含めて）」この言葉を各従業員に充分理解してもらった上でそれぞれに聞いて見ました。（8名）

「利用者にどこまで教えてよいか?」

「利用者がどれくらい理解してくれるのか?」

「印刷機械を教える中で危険なことがたくさんあるので怪我をすることが心配。」などの意見が出されました。この2回の話し合いを通して、少しずつではありますが今までとは違い、利用者の方たちが何を望み、従業員は何をすべきかを考えるきっかけになったのではと感じています。

今後の進め方

従業員の視点が変わってきたところで、今年度の個別支援計画を策定する上で、具体的に一人一人の利用者の方たちにどのような支援をしていくかの話し合いを第3段階としていきます。これにより一人一人の特性を活かした支援ができ、さらに従業員教育も合わせて行うことを目標とします。

プロジェクト全体の目標として

コロニーの従業員一人一人の目標

社会全体が不景気の中、障害者雇用が大きく問題とされています。障害者雇用率が未達成の企業は公表され、ハローワークではこれまでには無いような大きな規模での障害者雇用に特化した合同求人面接会を開催しています。しかしながら、これまで企業雇用されてきていた障害者の方たちが次々と解雇されていることも事実です。実際に昨年度からコロニーに新しく入られた方たちの中にはそのような方たちが多くいます。

ケースワーカーがハローワーク障害者担当者と話をした中でも同様の事例が多くあるとのことでした。障害を持っていても安心して働ける職場、障害があっても力を発揮できる職場作りを目指していくことは差別の無い社会を作り上げる上でとても大事なことです。現在ここで取り組んでいることはまさにこのことではないかと感じています。これらの事を活かしていく為に地域の企業とも今後連携をとっていくひとつのきっかけ作りができればよいと思います。**（仕上課印刷係長　千葉　昭夫）**

大田工場

2004年度大田工場互助会主催「暑気払い」

去る7月23日に大田工場の中庭において毎年恒例の互助会主催による「暑気払い」が行われました。

去年の暑気払いでは、途中から雨が降り出してしまい大急ぎで片づけを始めなければならないなどハプニングもありましたが、今年は6月中旬からの記録的な猛暑が続き、当日は役員が飲物の冷蔵にヤキモキするほどの暑さで暑気払いにはぴったりの日和となりました。

当日は生ビールのサーバ2台をメインに缶ビール、ジュース等を揃え、大田工場で毎日食堂で食事の管理をして頂いている㈱アイビス様のご協力でオードブル各種やデザートなど数種類の料理でテーブルを美味しそうに飾っていただきました。

就業時間が終わった午後5時半にはじまり、最初は各職場の仕事の状況で集まりが悪かったものの午後6時を回るころには、浜松町工場の方たちや内部外注で働く方たちが加わり、70名余りの盛況となりました。

普段は仕事の話以外ではなかなか直接話す機会が少ない浜松町工場で働く営業のメンバーや内部外注の方たちとのお酒を交えて歓談やビンゴゲームで盛り上がるといったひと時は、これからの大田工場にとって従業員同士のコミュニケーションがさらに円滑になる良い潤滑油になることでしょう。

（互助会会長　竹内　英貴）

IT事業本部

「アトピッ子地球の子ネットワーク」でのIT講習会

職能開発室では、6月～8月にかけて、「アトピッ子地球の子ネットワーク」（東京都港区）様主催の『思春期以降のアトピー性皮膚炎患者のためのスキルアップサロン』の講師を担当しました。

講習の内容は、ワード、エクセルの基本から応用操作、インターネットやウィンドウズの基礎知識で、合計12日間（32時間）の講義を行いました。

参加者は、重度のアトピー性皮膚炎の患者で、痒みのコントロールなど体調の管理が難しく、就労を希望しながらもままならない方々。まずは決まった日に「外出する」習慣を身につけることも今回のセミナーの目的です。講義にあたっては、小まめに休憩をとる、水分をとる、空調に気をつける等の配慮をしました。

猛暑の中での開催にも関わらず、ほとんど欠席者もなく、みなさん意欲的に取り組まれました。期間中にマイクロソフトの「オフィススペシャリスト試験」の合格者が出るとういうれしい報告もありました。また、終了後に私どもの「短期IT講座」に申し込んだ方もあり、現在もWeb制作技術者を目指して勉強されています。

今回の受講者は、パソコン操作は一通りできる方が多かったので、単なるPC操作の方法からもう少し踏み込んで、効率的なファイル管理の方法や、ビジネスで必要なメールマナー、セキュリティの考え方等も取り入れました。

職能開発室では、今後も個別のニーズに合わせた講習会を請け負って参りたいと存じますので、何かご用命がありましたらよろしくお願いいたします。

（職能開発室　岩田　真紀）

福祉事業本部

第1回日本グループホーム学会に参加して

入居者、援助者、研究者、行政関係者などの、違う立場で福祉を見つめている関係者が一堂に会する、日本グループホーム学会第1回の集いが2004・7／31～8／1に横浜で開催され、全国から400名以上の参加がありました。これに参加した報告をします。

「すまいのあり方」（1日目午前）

最初に、日本居住福祉学会会長の早川和男氏の講演がありました。住環境は、居住者の心理的側面、暮らしやすさ、近隣とのかかわり等、ハード面ではなく、ソフトな面で人間が生活する上で食生活と同じぐらいの重要さがあると言うことを学びました。また、グループホーム学会との協力体制を強調されていた事に、頼もしさを感じました。

「今後の障害者福祉の動向とグループホーム」（1日目午前）

次に、厚生労働省企画課村木厚子課長より現在の国の施策について説明がありました。支援費制度と介護保険の導入統合に関してのお話でしたが、利用がさらに拡大していくであろう中で、財源をどうするのかが大いなる課題なのだろうと痛感しました。国民に対しての課税で賄うとしたら更なる悪循環に陥るのは予測できますし、目先の期間だけでなく長期的な展開をシュミレーションし、財源確保を根本的に見直さないと介護保険との統合もすぐに改正、修正の危機にさらされるのではないだろうかと思いました。

「学会に期待するもの」（1日目午後）

入居者、家族からの発言の場がありました。参加者のはっきりとした意見に、生活すること（衣食住）がいかに重要な部分を占めているかと再認識しました。特にスタッフ（世話人）に対しての感じ方が千差万別であったことは大きな驚きでした。「自立のための通過点」「かまい過ぎないで欲しい」「もっとかまって欲しい」等々、個々人によっての意見の違いに、スタッフ対入居者3～6名の体制での難しさを感じました。

地域に出ること＝人間関係、コミュニケーションだと常々痛感しているので、スタッフ複数体制で運営するのが自然ではないかと思います。その後、入居者全員参加の言いたい放題を開催するとの事で、個人的にはそちらのほうに参加したくなってしまいました。貴重な意見、批判が聞けたのではないかと思いました。

シンポジウム「グループホームの可能性」（1日目午後）

知的、精神、身体、高齢、児童の

グループホーム運営者から実践報告と提言がありました。印象に残っているのは、今まで福祉は個人のボランティア性で走ってきた面が大きいがそれに頼るのではなく、制度を改善することが大切ではないかと言う意見でした。

福祉には、優しさなるソフト面ももちろん大切で第一に挙げなければならないことですが、そのソフト面をより具体的に制度化し、明文化するのが大切と思います。

分科会（2日目午前）

2日目は3つの分科会に分かれましたが、私は「性と結婚について考える」に参加しました。本人の意思決定力、それをサポートするスタッフの熱意。

自立後、寮を出て、2人で生活を始める事で得られるご本人たちの自信、それによって後に続く同じように結婚をしようとしているカップルに対しての助言。わがままではない、本人のこうしたいと言う願望に寄り添って、手助け、サポートしようとするスタッフの大変さもあると思いますが、それ以上のやりがいもあるのだろうなと感じました。

全体の感想

グループホームという器は沢山できたものの、その中身は千差万別。

様々なグループホームを見学、交流してみたいと思いました。障害者が地域で暮らすことの意味合いをもっと深く考えたいとも感じました。

スタッフ、利用者が共感できる物が育まれていけるよう動いてみたいと思います。

（グループホームスタッフ　秋山　信子）

青葉ワークセンター

ディズニーランド一泊旅行

まだまだ残暑きびしい9月16・17日、一泊旅行に行って来ました。場所はディズニーランド。ディズニーランドに関しては、利用者からの希望も多く、ここ何年かは毎年のように旅行の候補地に挙がるものの、条件が整わず却下されてきた場所でした。今年は都心のホテルがすぐに手配できた事もあり実施の運びとなりました。

初日、バス3台でディズニーランドに到着すると、まずはミッキーやミニー、ディズニーのキャラクター達の楽しいお出迎えです。皆の顔がパーっとほころびました。そこからは、明治大学の学生さん達を中心に約20名のボランティアを交えての班行動となりました。平日だというのに家族連れやカップル、修学旅行生でかなり混んでおり、昼食の場所を確保したり、お目当てのアトラクションに並んだりと各班ともかなり苦労した様です。それでも集合時間には、さまざまなお土産の入ったハロウィーンの袋を手に集まった利用者の皆さんの「楽しかった！」と言う声に互助会一同ホッとしました。

その後、ディズニーランドの余韻に浸りながら、宿泊場所であるホテル海洋に向かいました。夕食は、円卓での中華料理で、お楽しみのカラオケ大会となりました。大久保の高層ホテルでしたので夜景がとても綺麗でした。

2日目の午前中は、上野公園をのんびり散策し、昼食後は上野動物園へ。パンダや猿、ゴリラに象などゆっくり観て回りしばし童心に返りました。

大勢のボランティアに支えられての旅行でしたが、全員無事に帰路に着くことが出来てよかったです。ボランティアさんありがとうございました。

（工務係　浅川　恵子）

「シンデレラ城の前でニッコリ」

「ミニーちゃんとハイ・ポーズ」

法人の主な動きから

ISO9000シリーズ　資格取得への取り組み

社会就労事業本部の印刷事業は、2002年10月に経営の安定化を図り、利用者へのより質の高い就労支援を実現するために、コロニー東村山第二印刷所として中野・東村山両事業所の刷版以降の設備と人材を統合しスタートさせました。そして、現在までに生産管理部門、営業部門、事務部門、支援部門と、青葉ワークセンターを含め一体運営を目指すことにより、さらに有効性を追求すべく取り組んでいる最中であります。

ISO9000シリーズの資格取得については第二印刷所設立準備段階から検討しており、この間、複数のコンサルタント業者のセミナーを受講し、見積もいくつか取り寄せて検討を重ねています。しかし、現状の組織体力で経費とエネルギーをそこに振り向けることができるのかという不安も同時に付いて回っていることも事実です。

2004年度の事業計画は社会就労事業本部の中期事業計画（経営改革のプロセス）が基本方針として組み込まれています。顧客にパートナーとして選択していただける事業体を目指すこと、施設利用者がこの事業体で職業能力開発をしっかり受け一般就労を目指せること、あわせて継続就労の場として安心して働けること、従業員や利用者の生活や自立を目指すことを充分に保障できる処遇を実現させること、やりがいのある環境を作り上げること、地域になくてはならない存在を維持し続けることなどの結果を出すことが使命です。

当初、国内で取り入れられたISO9000シリーズは品質管理手法として受け止められていましたが、2000年度の審査基準改定により事業体の体質改善のために活用できる資格に変化しています。資格を取得するために様々な工夫や努力が必要です。ISO資格を取得した企業では、うまく活用して経営の安定化に成功している事例と、そうでない企業とにはっきり分かれる傾向があるそうです。これまで私たちが努力したことに加え、現在、印刷事業が直面している市場環境に対応していくためには、自らが意識改革に目覚め体質改善を図らなければと思います。また、資格を持つ事が入札要件になるケースが増えていることも事実です。9月の合同部課長会において、中野工場と東村山工場でISO9000シリーズの資格取得について年度内の早い時期に着手することで意思統一しました。あわせて毎日のように新聞記事で報道されている個人情報の漏洩問題では、来年4月から個人情報保護法が施行されます。対応策としてプライバシーマークの取得にも青葉ワークセンター・IT事業本部で取り組む予定です。

各々の資格を取得する過程においては体質改善の可能性があり、少しでも良い方向に変わる事ができるのであれば、挑戦する価値は大いにあると思います。皆さまのご協力をよろしくお願いします。

（コロニー東村山印刷所　所長　中村　敏彦）

ISO（国際標準化機構）＝各国の代表的標準化機関から成る国際標準化機関で「民間自身が民間のために民間規格を作る機関」として、1947年に設立されたもので、現在、本部はスイスのジュネーブにあります。設立の目的は、「商品とサービスの国際的な交換を容易にし、知識・科学・技術・経済に関する活動において、国際的な交流を助長するため、国際的な規模の標準化とこれに関するさまざまな活動を発展・促進すること」とされています。

（インターネット　「ISOとは」で検索　抜粋記事）

2004年度上半期の研修事業活動から

2002年度から発足した教育研修委員会の活動も、今年で3年目を迎えました。

教育研修規程の第2条にあります新規採用者教育、一般教育、福祉教育、専門教育、管理監督者教育のうち、の専門教育は各事業所や委員会で実施していくのが適当として、他の4つの柱について、企画してきました。

研修には、できるだけ多くの方が参加できるよう、繁忙期である下半期をできるだけ避け、上半期に次の3つの研修を開催する形でスケジュールを組むようにしています。

○合同新人研修会

（4／23、スマイル中野にて）

参加者27名のうち6名が従業員、21名が施設利用者の方でした。

理事長より、「新人研修にあたって」―東京コロニーとその役割―と題して、東京コロニーの始まりや、福祉

施策の変化と東京コロニーの事業について、話していただきました。

法人の歴史と各事業所の紹介を事務局から行い、午後は各事業所からの講師による「障害特性を知る」で、四肢、聴覚、精神、知的障害の特徴とそれに対する配慮について学びました。参加者の中には、それぞれの障害のある従業員、施設利用者の方がいらっしゃり、当事者 として自分や同僚の障害を理解するという場ともなりました。資料についても全面的に見直したことも今年度の成果の一つです。また、事業所見学（6／16、23、30、7／7）には、今年から生活の場である東久留米氷川台寮が加わりました。

○管理監督職研修
（7／10、中野サンプラザにて）

今年度はできるだけ多くの参加が可能となるように、土曜日に開催したことで各事業所から53名の参加を得ました。午前中は、全国セルプ協の副会長として国の施策についての協議を最も知っている理事長より「障害者就労施策の方向」―現状報告と認識―として、国の就労施策が大きく変わろうとしている現状をお話しいただきました。

午後は、これを受けての「リーダーズトークセッション」―現場からの提言―〝新たな環境での各々の役割は〟として、各事業所より4人のパネラーに出ていただき、事業紹介と施策に対する提言をしていただくコーナーを設けました。コーディネータを評議員で第三者委員でもある朝日雅也先生にお願いし、参加者からの意見や質問を受けてのやりとりをまとめていただきました。我々自身の中からパネラーを出してのこのような企画は初めての試みでしたが、各々の現場をあずかる管理職が自らの言葉で発言する機会は貴重であったと思います。ただ、時間設定の関係で「もっと討論を深めたかった」という感想をもった方も多かったようです。トークセッションについては、その後の取り組みとして、各事業所で情報収集や議論の場を作っていくこと、事業本部ごとに、トークセッション第二弾を企画することを検討していきましょうということとなりました。

管理職研修「リーダーズ・トークセッション」

もう一つは、プロジェクト発表会です。昨年度の管理監督職研修（久田則夫先生）を受けて、各事業所で立ち上げたプロジェクト6件についての発表をしていただきました。まだ中間発表のものがほとんどでしたが、日々の多忙な仕事の合間に活動を進め、発表の準備をしていただきました。今後は、各々の事業所において取り組みを進めていただくこととなります。

○ビジネスマナー研修
（9／14、スマイル中野）

23名の参加があり、組織においてプロ意識をもって仕事をしていくこと、顧客満足、職場におけるコミュニケーション、電話応対、来客応対などを学びました。今年度は、管理監督職の方にも進んで参加していただく方針で進めました。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

今後に向けて

委員会の活動も3年目で取り組みも軌道にのってきています。反面、法人全体での統一的な課題に向けた研修企画が困難となってきたのを感じます。

昨年支援費制度に移った社会就労事業本部の授産施設や福祉事業本部のグループホームにおいては、福祉的支援の充実をめざした内容を最優先の課題として持っていますが、「就労の場」と「生活の場」という違いがあります。一方、福祉工場事業本部やＩＴ事業本部の主に身体障害のある方の雇用の場では、障害の有無を問わず共にはたらく立場での企業と同様の課題（経営、技術のスキルアップ、職場のメンタルヘルスなど）があります。

今後の人材育成は、事業本部ごとの課題を解決する企画を、委員会と協力して進めていく形に変えていく方が効果的な取り組みができるように思います。

（教育研修委員会　加藤　留美子）

ビジネスマナー研修「二人１組で『コーチング』を体験」

アートビリティギャラリー 11

「青い水さし」

金子　倫久（かねこ　のりひさ）さん

■アートビリティ

1986年障害者アートバンクとして設立。「才能に障害はない。障害者の才能は、アートの分野において健常者とかわらない」を基本姿勢に活動を続けています。登録作家約400名、登録作品約4,000点、昨年１年間の使用実績約330点、年間の作品応募は2,000点を超えます。2002年４月アートビリティと改称。

今回の作品は、コロニー印刷・中野工場に勤務する金子倫久さんの作品です。

ご存知の方が少ないかもしれませんが、金子さんはアートビリティの登録作家なのです。

金子さんは、アートビリティが所属する同じ中野工場内で、ＤＴＰのオペレーターをしています。工場内で会うと、いつもニコニコ笑顔で応えてくれます。ひとなつっこい笑顔が魅力の好青年（?）という印象の金子さん。

金子さんに、この作品の思い出を語ってもらいました。

「この作品は私が高校生の時の作品です。高校３年の選択授業で美術の時間に３ヶ月かけて描きました。

描き始めは秋だったのですが、だんだん寒くなり教室に暖房が入り、背景の色がだんだん濃くなりました。

観てくれる人に教室の中の暖かさや、楽しかった雰囲気が伝わればいいと思うのですが……

あれからもう26年もたったのか……

現在は、絵は描いていません。

たまに映画を観に行ったり、友だちとお酒をのんで楽しく過ごしています。」

高校生だった金子さんが感じた晩秋を、この作品から感じてください。

（アートビリティ　事務局　岡嶋　明美）

ご協力のお願い

社会福祉法人東京コロニーでは、障害のある方への支援を就労や教育、生活の面から数多くの事業を行なっています。めざすことは、それらによる障害者の大きな意味での自律支援です。

私共の事業を応援して下さる方（あるいは団体）からのご協力を、下記を窓口に常時受け付けております。ご寄付の場合は、主に新しい事業の立ち上げや先進的な取組みを行うための財源に充当させていただきます。より多くの方へのより質の高いサービスをめざす当法人の事業に対し、今後ともご理解とご協力をお願いいたします。

（社会福祉法人への寄付は、税金が免除になります。ご寄付をいただいた際はそのための領収書を発行させていただきます。）

ご寄付受付　社会福祉法人東京コロニー　法人本部事務局（担当　加藤）

〒165-0023　東京都中野区江原町2-6-7　tel03-3952-6166　fax03-3952-6664

東京コロニーのホームページ

東京コロニー メインページ
http://www.tocolo.or.jp/

コロニー印刷所
http://www.tocolo.or.jp/nakano/

デジタル メディアセンター
http://www.tocolo.or.jp/dmc/

コロニー東村山印刷所・コロニー東村山
コロニー東村山第二印刷所
http://www.hig.tocolo.or.jp/

東京都大田福祉工場
http://www.tocolo.or.jp/oota/

トーコロ情報処理センター職能開発室
http://www.tocolo.or.jp/syokunou/

アートビリティ
http://www.artbility.com/index.html

東京都葛飾福祉工場
http://www.fireman21.net/

トーコロ情報処理センター事業部
http://www.tocolo.or.jp/joho/

トーコロ青葉ワークセンター
http://www.tocolo.or.jp/aoba/

生活寮のページ（東久留米・氷川台寮）
http://www.tocolo.or.jp/hikawadai/index.html

コロニーとうきょう ◎編集／社会福祉法人 東京コロニー 〒165-0023 東京都中野区江原町2-6-7 Tel 03-3952-6166 Fax 03-3952-6664 発行人／勝又 和夫 ◎印刷／コロニー印刷